

# 第6回 「日本語大賞」

テーマ

いま つた ことば  
「今、伝えたい言葉」



高校生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

日本にしかない言葉

アメリカ

シアトル日本語補習学校

高等部 2年 中野 汀

私の父はアメリカ人です。日本語勉強中の父はよく、「この日本語はどういう意味か？」と聞いてきます。大抵は「kind」なら「親切な」のように、日本語の意味にぴったりと当てはまる英単語があるのですが、稀に単語一つでは表せないような日本語に出くわします。辞書で調べても言葉の意味が文で書かれていてなかなか上手く説明することができません。たとえ上手く説明できたとしても、その概念を持たない人々には理解してもらうのは難しいようです。

エスキモーにとって雪は生活には欠かせないものなので、雪の表現が他の言語より多いと聞きました。日本語にあって英語にないという事は、その事について私達が英語を話す人々より大事に思っていることのように感じます。

例えば、「懐かしい」です。私は日本に帰国するとこの気持ちでいっぱいになります。英語の辞書には「good old」と訳してありますが、ちょっとしっくりこないような気がします。小さい頃大好きだった食べものを久しぶりに食べたり、お気に入りだったおもちゃを見つけたりした時の「驚きを含んだ温かい気持ちになれる思い出」は、やはり「懐かしい」なのです。この言葉があるからこそ、この気持ちを楽しめるような気がします。

また、つい最近発見したのは「反省」という言葉です。英語では「regret（後悔）」や「reflection（熟考）」がありますが、「反省」はこの二つが一緒になったような意味で、後悔したことについてよく考え、批判的な評価を下し次に繋げるというようなニュアンスが感じられます。多くの日本人が小さい頃から、「反省しなさい。」などと目上の人に言われ、この短い単語で自分自身を成長させてきたのではないのでしょうか。その「反省」を繰り返した国民が、日本の技術やサービスをここまで発展させてきたような気さえします。

ある日テレビをつけたら環境問題についての特集が放送されていました。内容はケニア人女性、ワンガリ・マタイさんが「もったいない」という日本語を世界に広めているとの事でした。彼女は日本に来た際に「もったいない」という言葉の意味を知り、その一言で Reduce（リデュース削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）、そしてかけがえない地球資源に対する Respect（尊敬）が表せると感銘を受けたそうです。彼女は他の言語で該当するような意味の言葉を探しましたが、見つからなかったそうです。

英語には「waste（無駄）」という言葉はありますが、ワンガリ・マタイさんの言うようにその物に対する「尊敬・敬意」が含まれていません。アメリカの学校のカフェテリアでは、食べきれないぐらいの量を盛るので、ごみ箱は残した食べものでいっぱいです。アメリカも環境問題には無関心ではないものの、「もったいない」という概念がないので

食べ物を捨てるという事に罪悪感を覚えないようです。小学生の時から「給食は感謝して残さず食べましょう。」と教わりました。今思うと、「もったいない」という概念は小さい頃から少しずつ培われているのだとわかります。

今までは、人々が言語を含む文化を作っているように考えていましたが、言語がその国民性を作っているようにも考えられます。日本にしかない言葉（概念）は私達の誇れるもの一つの文化です。その言葉を大切にしたい世代にも伝えていきたいです。